

身近なコミュニケーションの場面を設定し、
必然をもってコミュニケーションを図ろうとする姿を生み出す指導方法の工夫改善

学校名	多治見市立笠原小学校
実施状況(学年・回数)	・第1・2学年：英語学習(E学習)を実施 ・第3～6学年：英語学習(E学習)を実施
年間指導時数	E学習として第1・2学年35時間、3～6年70時間
指導体制	・E学習 HRT(学級担任)とALT(外国人指導助手)によるTT指導 ・E活動 JTE(英語担当)による全校放送とHRT(学級担任)による指導
その他	文部科学省指定研究開発学校(期目H18～H20)小中一貫教育

1 昨年度までの実践

- ・高学年の児童は、特にゲーム的なものに対する興味が薄れていく。児童が英語でのやりとりをしてみたいと思う課題と内容を持つ題材(「笠原型コンテンツ・ベイスト」*)を学年の実態に合うように常に検討を繰り返してきた。
- ・児童への負担を考えながら既習の英語表現や汎用性の高い言語材料を選ぶことによって、児童の実態に合った表現活動を目指した。

* 笠原型コンテンツ・ベイストの手法を取り入れた「伝え合う内容を重視した英語活動」の事例

- ・他教科の学習内容を素材とした英語活動
- ・内容を伝え合うための必然性を重視した学習
- ・「聞く」「話す」を中核にした学習
- ・気付きや発見を大切にしたい問題解決的な活動の重視

2 英語活動を通して目指す姿

(1) 第4学年までの児童の姿

- ・あいさつ等の慣れ親しんだ英語表現を使う姿や耳慣れた言葉を発する児童が育ってきている。
- ・積極的に知っている英語を使ってコミュニケーションする児童が増えてきている一方、コミュニケーションの一つの型から抜け出せない児童も見られる。

(2) 英語活動を通して願う児童の姿

- ・聞き手の理解を確かめながら、知っている語や句・文を使って話そうとする姿。
- ・相手が伝えようとする内容を共感的に理解したり、自分の気持ちや考えをはっきりと伝えようとしたりする姿。

3 本年度の重点実践内容

児童の実態にそった年間指導計画の見直し
主体的なコミュニケーションを目指したコンテンツ(内容)と英語表現のバランスの見直し
昨年度から試みた異学年や中学生との協同学習を指導計画に位置付けたことによる、コミュニケーションの動機付けの在り方と英語を使う必然性のある場面設定の模索

4 具体的な実践

(1) 単元の指導計画

実施学年	5年	指導時期	12月
題材名	「クリスマスケーキをつくろう」Contents:図画工作・家庭科		
題材目標	This cake has ~.や Do you like~? 等の表現を用いて、クリスマスケーキデザイナーとして自分のケーキのよさをアピールしたり、What do you think about my Christmas cake? や It's O.K.(Good/Very good/Great)! 等の表現を用いて、感想を伝え合ったりするという活動を通してお互いの理解を確かめながらコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。		
主に扱う語彙や表現	This cake has two cookies(reindeer/snowman/star/candle/strawberry/...etc). This is very delicious(fresh/good/sweet/healthy/...etc). Do you like fresh cream (fruit/kiwi/peach /orange/candle/chocolate/ice cream/etc.)? Yes, I do. No, I don't. No, I don't. What do you think about my Christmas cake? Why do you think so? Because I like~.		
教材・教具	クッキー・果物・クリスマスにちなんだもの(ろうそく・雪だるま・星・トナカイ・・・) オリジナルのケーキのカatalog		

評価の観点	評価規準(実現したい具体的な姿)
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	・外来語に興味をもち、外来語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする。
英語によるコミュニケーション	・相手の質問に応じて、ジェスチャーを使いながら答える。
言語や文化についての気付き・理解	・外来語は様々な国から日本に伝わった言葉であることに気付く。 ・外来語とその基になっている外国語の発音の違いに気付く。

時間	目指す姿	主な活動内容	主に扱う語彙や表現	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度 英語によるコミュニケーション 言語や文化についての気付き・理解
1	・ This cake has ~.の表現を用いて、自分の好きなクリスマスケーキのデザインを話したり、相手の好きなケーキを聞いたりする。	・ 自分の好きなクリスマスケーキのデザインを相手に話したり、相手の好きなケーキを尋ねたりする活動をする。	This cake has circle sponge.	一人一人からよいデザインを取り上げ、グループで人気のケーキのデザインを決める活動に向けて、英語でやりとりをしながら、相手の意図を理解したり、仲間にアイデアを伝えようとしたりする関心・意欲・態度を育てる。
2	・ This cake has ~.や What ~ do you like? の表現を用いて選んだ材料を使って、グループでクリスマスケーキをデザインする活動を通してお互いの理解を確かめながらコミュニケーションを図る。	・ 3000円の予算以内でクリスマスケーキの材料を考え、グループでよく相談して決める活動をする。	What cake's sponge (shape)do you have? My cake has ○sponge. O.K. My cake has ○○ sponge. Do you like this? Yes, I do./No, I don't. This one, choose O.K? How about you? O.K./Me, too.	材料を一つ一つ決めるために、グループの一人一人が自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりして、飾りするために、英語によるコミュニケーションを深めていく。
3	・ 選んだ材料を使って、グループでクリスマスケーキをデザインする活動を通してお互いの理解を確かめながらコミュニケーションを図る。	・ 1人1人からよいデザインを取り上げ、グループで1つのケーキをデザインする活動をする。	○○san, How about 4 strawberries here? Up or down? Right or left? Top or under? Same. Me, too. No, sorry. Please, left. Do you like this design? Yes, I do. No, I don't. This part is nice idea. ○○ is O.K.	グループで決めた材料をいかに飾るかについて、互いの考えを聞き合いながら、ケーキを完成していく活動を通して、英語によるコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
4	・ 自分たちがデザインしたクリスマスケーキのよさをアピールする活動を通してお互いの理解を確かめながらコミュニケーションを図る。	・ グループで作ったオリジナルケーキを他グループに積極的にアピールし合う活動を通して、お気に入りのケーキを見付ける活動をする。	This is my Christmas cake. This cake has ~. This is very delicious. Do you like this? Yes, I do./No, I don't. What do you think about my Christmas cake?	グループごとに完成したケーキのデザインのよさを他グループにアピールする活動を通して、互いのケーキについての気付きや理解を深める態度を育てる。
5	・ 自分たちがデザインしたクリスマスケーキをアピールしたり、相手のデザインの感想を伝えたりする活動を通して、お互いの理解を確かめながらコミュニケーションを図る。	・ グループで作ったオリジナルケーキを他グループに積極的にアピールし合う活動を通して、お気に入りのケーキを見付ける活動をする。	It's (I think) O.K./good/very good/great! Why do you think So? Because I like ~. Thank you.	グループごとに完成したケーキのデザインのよさを他グループにアピールする活動を通して、互いのケーキについての願いや意図についての気付きや理解を深める。

(2) 授業の特徴について

本校が特に大切にしてきたのは、「問題解決的な活動の工夫」と「聞く活動の重視」である。児童の実態を把握し考慮しながら、本単元も、この2点に配慮して、昨年度までの指導計画「クリスマスデザイナーになろう」を「クリスマスケーキをつくろう」に変更した。さらにデザインだけを追究するのではなく、次の2つに特に着目した。

自分の願いをもち、意欲的に調理計画を立てる。
自分の願いに合った材料の種類や切り方を工夫する。

そして、デザインしていく過程を通して調理することに対する興味・意欲をもつこと、どのような材料を使えば、『自分や相手の満足のいくクリスマスケーキになるのか』という創意・工夫することの力を育成できると考えた。また表現においては、単元を通して has を様々な意味で意図的に使っている。has は、汎用性の広い単語で、一つの表現で様々な情報を相手に伝える事ができ、児童にとって幅広い言語運用能力を身に付けることができると考えた。

(3) 本時の流れ (5/5) 評価 指導・援助 コミュニケーションについて 準備品 その他

過程	主な活動		評価・指導・援助
	児童	教師(HRT・ALT・JTE)	
・ Greeting	<ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつをする。 Stand up, please. Let's enjoy English! O.K!! Hello. Osaka-sensei. I'm fine, thank you. And you? It's sunny. It's December 2nd. It's Tuesday. 	<ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつをする。 Hello. Everyone! I'm fine, thank you. How's weather? What's day is it today? What's day of the week? 	<p>コミュニケーションマナーを身に付け、授業の雰囲気作りのために相手を見ながら元気よくあいさつをする。</p>
・ Activities	<p>ALT のデザインしたクリスマスケーキについて話を聞き、その中で内容を正しく聞き取って反応したり、ケーキのアピールの仕方に慣れ親しんだりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ALT : Look at this picture! This is my Christmas cake. This cake has ~. This cake is very delicious. Do you like this? HRT&C : Yes, I do. / No, I don't. ALT : What do you think about my Christmas cake? HRT&C : (I think) It's O.K./good/very good/great! ALT : Why (do you think so)? HRT&C : Because I like ~. ALT : Thank you. 	<p>ALT のケーキの紹介についてどんなケーキをデザインしたのかを興味をもって聞いたリ、反応を示したりする。話を聞いてデザインの評価やその理由について相手に伝えようとする。</p>
	<p>お気に入りのケーキを見付けるためにグループで作ったオリジナルケーキを積極的にアピールし合おう。</p>		
	<p>グループで作ったケーキについてアピールしあう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションをする時のポイントを児童に確認する。 	

	<p>グループ内でお互いにアピールをし合う。 前半・後半のペアに分かれ、ケーキのアピールをしたり、聞いたりする。</p> <p>C1: This is my Christmas cake. This cake is very delicious. Do you like this?</p> <p>C2: Yes, I do./No, I don't. What do you think about my Christmas cake?</p> <p>C2: It's O.K./Good./Very good./Great!</p> <p>C1: Why?</p> <p>C2: Because I like~.</p> <p>C1: Thank you.</p> <p>・ケーキのアピールをしたり聞いたりする。 ・気に入ったデザインについて全体の場で交流する。</p> <p>H: Which do you like the best?</p> <p>C1: I like ○group's cake.</p>	<p><話し手> 表情、声の大きさ ジェスチャー、 内容を話す。</p> <p><聞き手> 相づち、リピート、自分の考えを述べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手の目指す姿に気付くことができるように、ALTと会話をし、反応を分かり易くすること、聞き取りにくい時や分からない時は質問することの大切さを示す。 ・児童と共にアピールを聞いたり、必要に応じて英語での言い方を教えたりする。 ・意欲的に交流している児童の姿をほめて認める。 ・前半と後半の間に時間を取り、アピールの仕方や聞き方のよい姿を全体に広める。 ・It's a good design.等とほめ言葉を投げかける。 ・どのグループのケーキが気に入ったのか質問する。 	<p>基本表現を用いたり、話しぶりを工夫したりして、積極的にケーキのアピールをする。</p> <p>聞き手として、相手の話に反応したり、確認、質問したりして積極的にコミュニケーションを図る。</p> <p>既習の表現やジェスチャーを用いながら、英語で伝えること姿を大切にす。</p> <p>児童とともにアピールを聞いたり、必要に応じて英語の言い方を教えたりする。</p> <p>活動をスムーズに進めることができない児童に寄り添い、ジェスチャーや掲示物を指差ししアドバイスする。</p> <p>自分でデザインしたケーキを相手にアピールし、相手がデザインしたケーキについてもっと知ろうとして、英語を用いてコミュニケーションを図る。</p>
<p>・ Comments</p>	<p>評価カードに振り返りを書き、発表する。 ALT、HRT のコメントを聞く。</p>	<p>・仲間と積極的にコミュニケーションを図っていた姿をほめる。</p>	<p>・本時の英語のコミュニケーションを楽しめたか。</p>

5 実践の検証

(1) 実践授業から

「クリスマスケーキをつくろう」の個人カードから、コミュニケーション後の児童のコメント

***相手に理解してもらうために、コミュニケーションの態度を意識して高めようとしている姿**

A男 今日、相手の目を見て、相手の子が分かってくれたら次に進むという自分の目当てが守れてよかったです。また、今日は、少し、連続してアピールをすることができました。

***積極的にコミュニケーションをしようと努力している姿**

B子 今日、トピックを自分から進んでやれました。また、笑顔でやろうと思い実行しました。本番も、もっとスマイルでやりたいです。

***ジェスチャーによるアピールについて友達のよさを学ぶ姿**

C子 今日、自分たちのグループのケーキをアピールしている時に、うなずいたり、たくさん質問をしてくれたりしてくれる子もいてうれしかったです。今度は、ジェスチャー等も使ってアピールできるといいと思いました。

***ケーキの説明を聞いた子が、話し手のアピールの内容の良さを学ぶ姿**

D子 最終チェックの時、5グループの子がたくさんアピールをいたし、これは、好きですか？等たくさん聞いてきたので、私もたくさんアピール等をして、お客さんに、買ってもらえるようにしたいです。

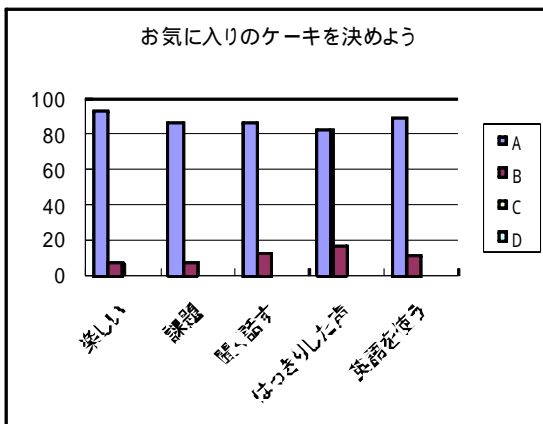
児童の自己評価データから見る学習の様子

ア【評価項目】

1. 今日の英語は楽しかったですか。
2. 今日の Topic ができましたか。
3. 相手の目を見て聞いたり話したりできましたか。
4. 大きな声でたずねたり答えたりできましたか。
5. できるだけ英語を使おうとしましたか。

イ【自己評価レベル】

- A：たいへん良い
- B：良い
- C：あまりできなかった
- D：できなかった



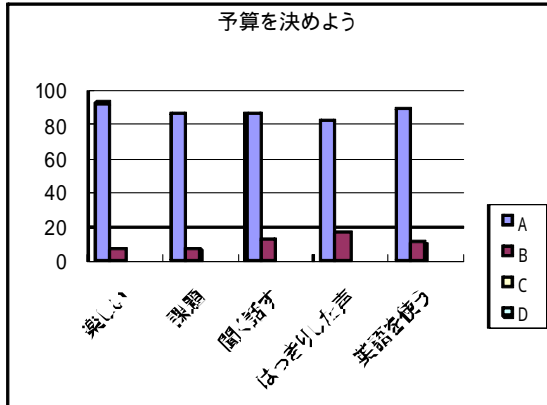
「クリスマスケーキを作ろう」第1時

主な活動

英語をよく聞いて、カタログの中から先生や仲間のお気に入りのケーキを見付け出す。

分析

時期的にも興味のある単元であった。動機付けは、十分であったが、最初の1時間のため英語を十分に使ったり、慣れていない音声の聞き取りが今一步できない。自己評価もややB評価が多い。



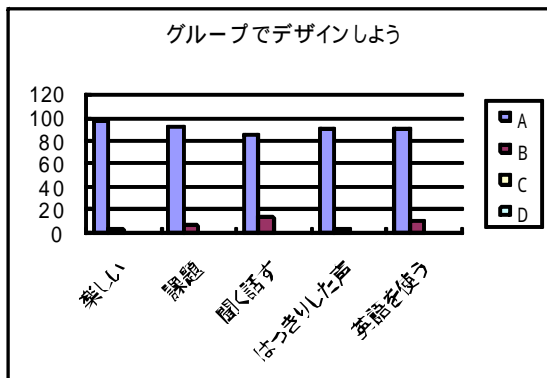
「クリスマスケーキを作ろう」第2時

主な活動

3、000円の予算以内でクリスマスケーキの材料を考え、グループでよく相談して決める。

分析

2時間目の評価は、1時間目と変化がほとんどないが、小集団でのコミュニケーションは、既習の表現を使ってよく話している。



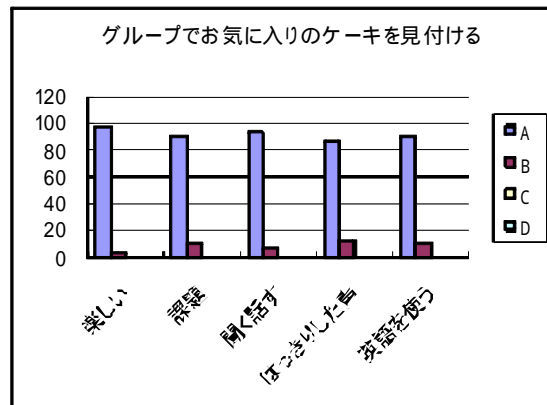
「クリスマスケーキを作ろう」第3時

主な活動

一人一人からよいデザインを取り上げ、グループで一つのケーキをデザインする。

分析

小集団のコミュニケーションで、児童たちは、よく話した。やや相手の話を聞き取りにくいと感じた子もいる。



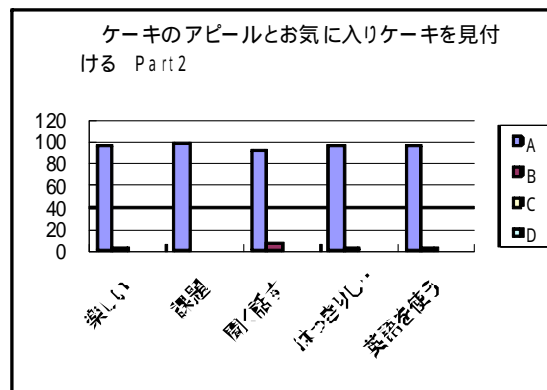
「クリスマスケーキを作ろう」第4時

主な活動

グループで作ったオリジナルケーキを積極的にアピールし合い、お気に入りのケーキを見付ける。(活動)

分析

聞く・話すについての抵抗を感じない子が増えてきた。相手の目を見てアピールしたり、相手の話を理解しようとしたりした子が多かった。



「クリスマスケーキを作ろう」第5時

主な活動

グループで作ったオリジナルケーキを積極的にアピールし合い、お気に入りのケーキを見付ける。(活動)

分析

第4時と同じ活動で相手が変わるコミュニケーション活動の第5時であるので、ほとんどの子が自信をもってやりとりをすることができた。

【考察】

- ・課題に対して、「良くできた（評価カードでは、 ）」と答えた児童が、80%を超えていた。「できた」と答えた児童も含めると100%の児童が「できた」という達成感をもてたことになる。また、児童にとってモチベーションの高い学習素材であったことや、5時間の授業が児童の集中を切らさない連続性のある活動であったことが要因であると考えられる。

(2) 成果

年間指導計画の見直しについて

ア 身近なコミュニケーションの場面を設定し、必然性をもってコミュニケーションを図ろうとする姿を生み出す「笠原型コンテンツ・ベイスト」を大切にした英語活動の細案による年間指導計画全ての指導案をデジタル保存し、実践しながら細部に手直しや入れ替えをして改善を図ることができた。

Ex.)

- ・第5学年の「クリスマスケーキをつくろう」は、昨年度の「クリスマスデザイナーになろう」を改善したものである。「クリスマスデザイナーになろう」は、架空のケーキを一人一人デザインすることが単元の最後まで続く。一方「クリスマスケーキをつくろう」は、一人一人のアイデアをグループでの話し合いによって一つにまとめていく。最後に自分たちのケーキを一人一人が他のグループの児童と交流し、質問やアピールを互に行う活動になり、モチベーションの高い活動になった。

コンテンツ（内容）と英語表現のバランスについて

ア 英語活動を仕組む際に、意図的に言語材料に汎用性の高い英語表現や耳慣れた既習表現を豊富に使うことにより、児童がより楽しく主体的にコミュニケーションを図ることができる事が分かった。

イ 第5学年の「クリスマスケーキをつくろう」は、他のグループの児童同士で互いにアピールしたり、相手のケーキについて質問したりする活動から構成している。相手に分かり易くアピールしたり、相手の質問に対応したりする必要があるため、言語材料は、汎用性の高いものや既習表現を多く使うことによってコミュニケーションがより豊かになり、児童にとって楽しい活動になった。

英語を様々な場で使用する場の工夫について

ア 異学年（第3学年と第6学年、第6学年と中学第1学年）での英語活動（呼称：協同学習）を行うことによって、インフォメーションギャップを利用した英語活動ができ、問題解決的な必然性のあるコミュニケーション活動になった。

イ E学習を支えるE活動（えいごリアン学習）やE体験（体験学習）で、英語を使用する様々な場面を広げていった。

- ・ E 体験：七夕フェスティバル、ハロウィーンパーティー・英語の物語の読み聞かせ等で、実践的な場を設けることによって、英語に対する楽しさや自信をもつ機会になった。
- ・ E 活動：教育番組「えいごリアン」を視聴したり、キーセンテンスを用いて活動したりすることで、実践的な場の英語表現に慣れ、E 学習等で、その表現を活用しようとするが見られた。

(4) 課題

問題解決的な英語活動の在り方について

ア 内容と英語表現のバランスについてさらに検討する必要がある。

イ 題材のコンテンツは適切かどうかを課題、児童の興味関心、そして英語の言語材料の広がりや深まり等多方面からさらに考えていく必要がある。

児童の定着度・習熟度の実態調査

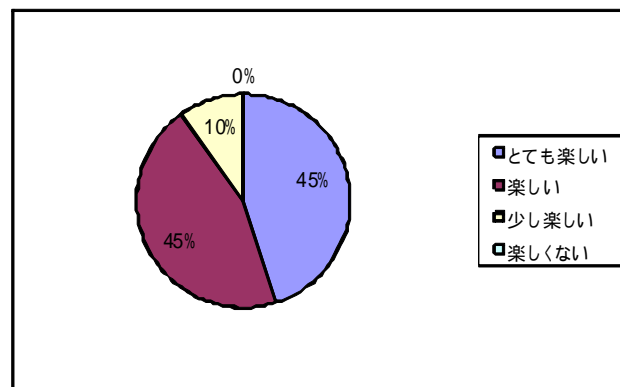
ア 「意識調査」「面接調査」(描写力)「リスニング(聞き取り)調査」を継続しつつ、これらの調査がコンテンツ・ベイストのよさを実証するものとなり得るのかを検討する必要がある。

6 資料

(1) 第5学年の調査実施(現5年生の追跡調査を含めて)

意識調査

Q: 英語の勉強は楽しいですか。(H20年度)



第5学年の意識調査の変遷(現在第5学年の追跡調査)

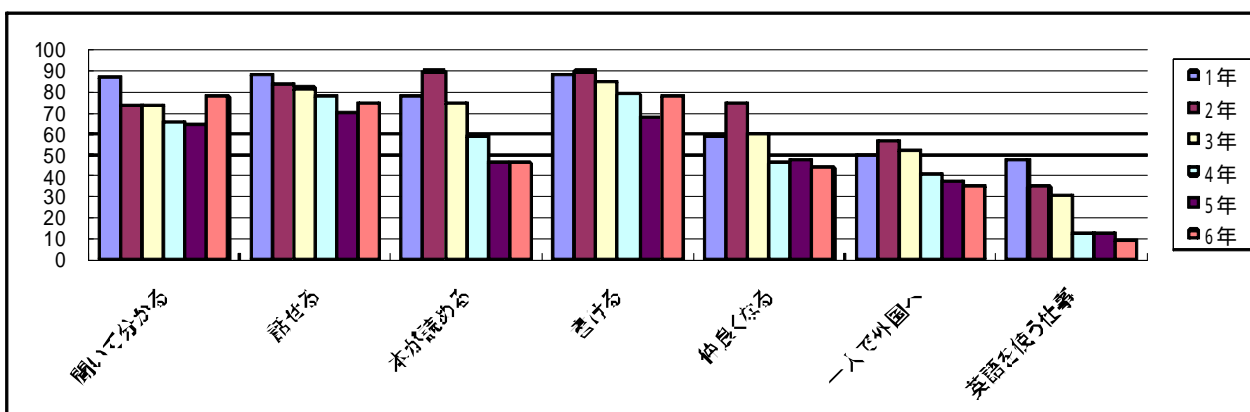
	1年(H16)	2年(H17)	3年(H18)	4年(H19)	5年(H20)
とても楽しい	82	69	50	30	45
楽しい	10	25	41	46	45
少し楽しい	6	4	8	22	10
楽しくない	2	2	1	2	0

【考察】

- ・第4学年までは、学年が進むにつれて、「とても楽しい」と感じている児童が減少してきていた。しかし、第5学年になって、「とても楽しい」と感じている児童が前年の30%から45%になり、15%の増加となった。
- ・児童にとって、「楽しい」の中味は、学年が進むごとに変わってきている。例えば低学年では、リズムカルな活動を伴ったものを楽しみを感じる。中学年、高学年と進むに連れて「とても楽しい」「楽しい」と感じている子が徐々に減少してきている。そんな中、20年度での第5学年の「とても楽しい」「楽しい」と感じた児童は、90%に達した。これは、第5学年の実態に合った知的好奇心をくすぐるコンテンツを見出し、開発した担任の努力の成果であったと考えられる。

意識調査

Q：英語を勉強して何ができるようになりたいですか。(複数可) (H20.12調査)

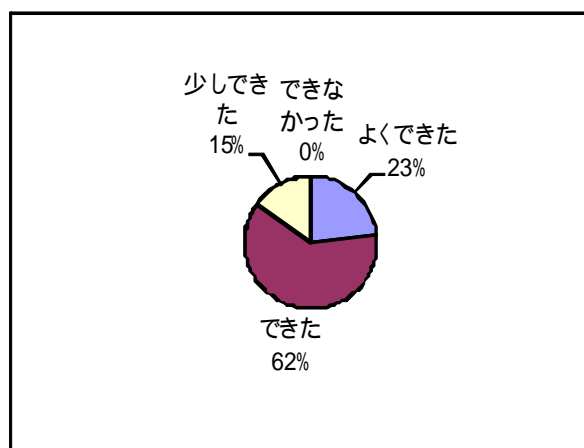


【考察】

- ・高学年になるにつれて、どの項目も「できるようになりたい。」と思う気持ちの割合が下がってきている。それは力は徐々に身に付いてきているので、自分の力が良く分かっているからではないかと推測できる。その中でも「話せるようになりたい。」「書けるようになりたい。」「聞いて分かるようになりたい。」という意識が高く、日頃の学習で自分を知りつつ「～になりたい。」という前向きな姿勢がうかがえる。

意識調査

Q1：E学習は、コミュニケーションがよくなりましたか？



【考察】

- ・ E 学習では、コンテンツを常に吟味してきているので、児童は、目的（タスク）をもって楽しくコミュニケーションをする。その後、発見や気付きがあり、「できた」という実感を持つ児童が多い。

Q 2 : E 学習でどの学習が良かったですか。その理由も書きましょう。

「安くておいしいピザを作ろう」
 「車をつくろう」
 「クリスマスケーキをつくろう」

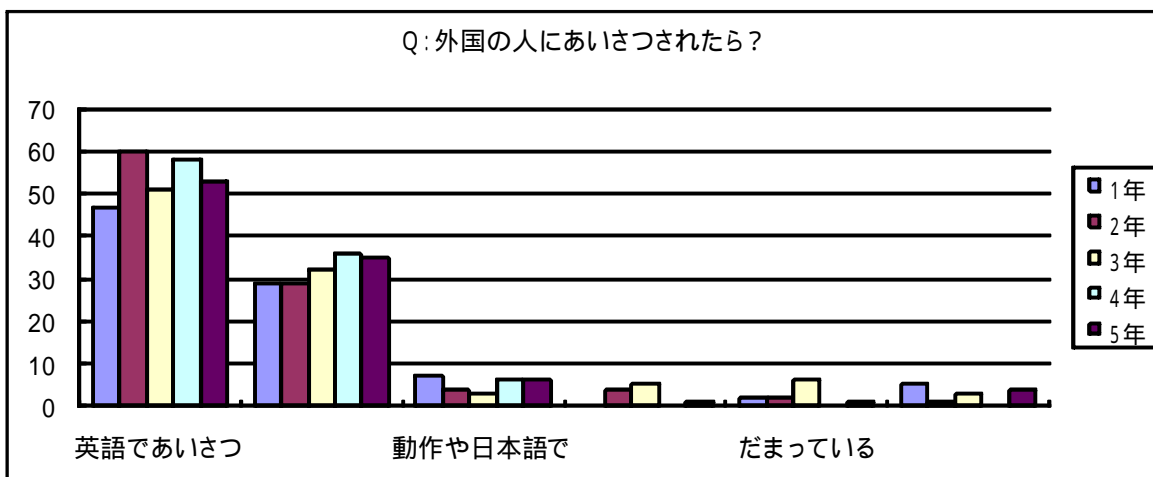
<理由>

- ・ピザの具を聞き合って、グループの具材を決めたこと。
- ・車を作る時にアイデアを出し合い
- ・考えを交流することが楽しかった。
- ・おもしろいアイデアがあった。

【考察】

- ・身近な題材や仲間と話し合っ、ある事ができたり、分かったりすることが、児童にとって、「よかった」と感じさせるのだと捉える。

Q 3 : 外国の 人に英語であいさつされたら自分はどうだと思いますか。(%)
 自分に一番近いと思うものに一つ をつけましょう。



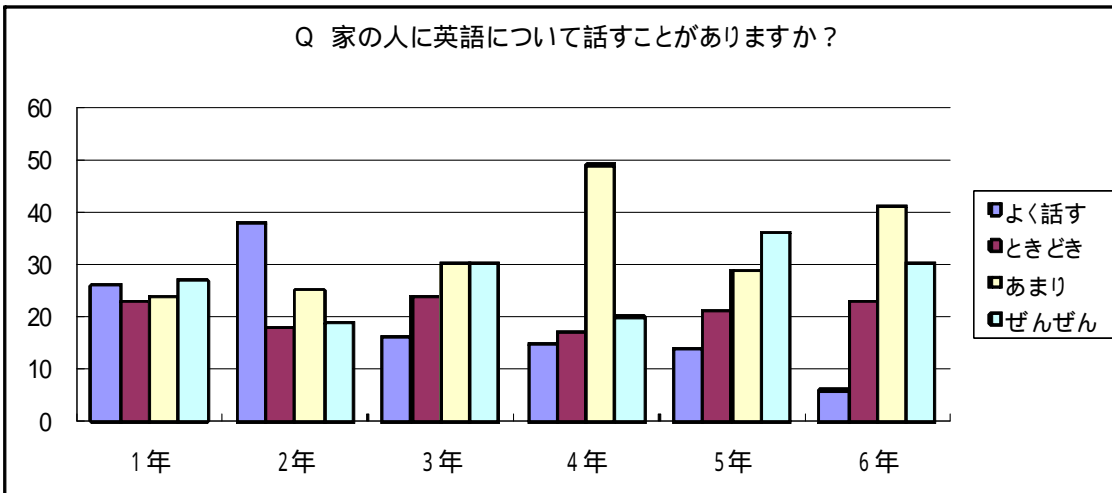
英語であいさつ	はずかしいけどあいさつ	動作や日本語で	言葉に出ない	黙っている	知らん顔
55%	36%	5%	1%	1%	2%

<アンケート実施人数：5年生 114人>

【考察】

- ・どの学年も同じような傾向で大差がない。あいさつは日常では自然に出てくるので、自信をもって積極的にできる。また、3～4人に1人は、はずかしいと感じながらも英語でチャレンジしようとしている意識が十分伺われる。日頃から校内ではALT(現在3人)とよく会話したり、一年に一度は大学の留学生を招いた交流会を開いたりするので、親しく身近に感じている児童が多い。特に他学年と異なった傾向はない。

Q 4 : 家の人に英語について話すことがありますか。
自分に一番近いと思うものに一つ をつけましょう。(%)



【考察】

- ・学年が上がる程に家の人によく話す児童の割合は下がってくる。
しかし、ぜんぜん話さない児童は、第2学年と第4学年を除いて同じような割合である。
- ・学級や学年通信で話題にしたり、授業参観で英語授業を公開したりして学校から発信をしている。

(2) E 学習「クリスマスケーキをつくろう」の場面 <全5時間中5限目>

<資料1 実際の活動場面>

(主な言語材料)

This cake has two cookies (reindeer/snowman/star/candle/strawberry/...etc.

This is very delicious (fresh/good/sweet/healthy/...etc.

Do you like fresh cream (fruit/kiwi/ peach/orange/candle/chocolate/ice cream/...etc.)?

Yes, I do. No, I don't.

What do you think about my Christmas cake?

Why do you think so? Because I like~.

Greetings

Activities



課題提示

ALT がデザインしたクリスマスケーキについて担任が反応したり、質問したりして児童に提示する。児童は、それを聞きながら、今日の課題を明確にしている。

児童同士の英語でのやりとり

C1: This cake has circle sponge.

This cake has 4 candy canes.

C2: How many cookies does the cake have(can you see)?

C1: This cake has(I can see)5 cookies.

C2: You like No.1 cake.

C1: That's right.



Comments

- ・児童：「コメントカード」に友達とのやり取りの中で発見したこと、気付いたこと、そして、友達のよかった点を発表する。

(ex.)

< More English > 英語をたくさん使った。

< Clear Voice > 相手に伝わる声の大きさと話した。

< Eye Contact > 目を見てコミュニケーションをした。

- ・ALT：主に英語表現について評価する。

- ・担任：進んで英語を使おうとする姿。

進んでコミュニケーションをしようとする意欲的な姿を評価する。

進んで仲間とかかわろうとする姿について評価する。